

## 岩手県野田村支援・交流活動

皆さまから多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本学ボランティアセンターでは、東日本大震災以降、9年に渡り、甚大な被害に見舞われた岩手県九戸郡野田村への支援・交流活動を継続しています。本活動では、学生と市民、そして行政が一緒になって被災地に出向き、被災者の皆さんに寄り添う活動を継続しています。昨年は、高台移転地区である新町地区での新しいコミュニティづくりを支援するため、夏祭りの事業を応援しました。祭りでは被災者と市民・学生ボランティアが一緒になって、大きな盆踊りの輪が出来ました。交流を通して、少しずつみんなの笑顔が増えてきたような気がします。特に、毎年8月11～12日は夏休み宿泊合宿と題し、被災地の子どもたちと大学生が一緒に合宿形式で交流活動を行っています。本事業は、「大学生ともっと沢山の思い出を作りたい」という野田村の子どもたちの声から始まった事業です。今年は、子どもたちと一緒に地域の宝探しをしました。いきいきと大学生に村の宝物を紹介する子どもたちの瞳が印象的でした。今後も被災地に寄り添い、被災者の皆さんと弘前市民、学生諸君の笑顔があふれる活動を継続していきたいと思っております。今後とも一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学ボランティアセンター 副センター長  
人文社会科学部 教授 李 永俊



弘前大学ボランティアセンターは東日本大震災を契機に設立され、甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村への支援・交流活動を行っています。震災発生から9年が経ち、本活動も今年で10年目をむかえます。発生当初は、瓦礫撤去などのハード面の支援を。近年は、野田村の方々と会話をしたり一緒に棒パンづくりをしたりとソフトな支援に移行しています。

2019年度は、4回の野田村交流支援活動を行いました。今年度は毎年行っている活動として夏祭りの実施や宿泊体験学習、クリスマス会、追悼式などを計画し、新型コロナウイルスの影響で追悼式への参加は中止となってしまいましたが、その他は計画通り順調に実施されました。

野田村の人々にお会いして震災当時の様子を聞いたり、被災した方々の現在の状況を知ったりすることができました。現地に初めて行く学生も多く、仮設住宅の様子や海からの近さを実感しました。宿泊学習やクリスマス会では野田村の子どもたちとレクリエーションやダンスレッスン、パフェづくりなどで楽しく交流することができました。元気いっぱいの子供たちから学生もたくさんの元気をもらいました。

活動を通して計画や運営の改善点も多く見つかりました。現場では迅速で臨機応変な行動が求められるということを痛感しました。弘前市民の方々や野田村の方々、子供たちと一緒に協力するためには集団をまとめる能力が必要なので学生事務局を中心にリーダーシップを強化したいと思います。

今後も、野田村の人々に寄り添いながら被災地の皆さま、弘前市の方々、学生とともに野田村を元気づけていきたいと思っております。

最後になりましたが、このような活動をするためにご寄附をいただいたことに感謝申し上げます。

大学院教育学研究科 1年 田口 唯  
農学生命科学部 2年 武藤 春香

